

D-D剤 DC 油剤	取扱メーカー： 協友アグリ、ホクサン 原体メーカー： エス・ディー・エス
成分： 1,3-ジクロロプロペン〔PRTR・1種〕……………97.0%	性状： 淡黄色澄明液体 毒性： 劇物 消防法： 第4類・第2石油類（非水溶性）・危険等級III

【品目特性】……………

- D-Dの有効成分である1,3-ジクロロプロペンを高濃度に含有する殺センチュウ剤である。
- ネコブセンチュウばかりでなく、防除のしにくいネグサレセンチュウやシストセンチュウにも高い効果がある。
- 地温が低くても高い効果を発揮する（地温7℃以上が望ましい）。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 土壤中にガスを十分拡散させるため、耕起、整地は丁寧に行う。
- 処理は原則として作付の10～15日前に行い、作付の3～4日前に畑を耕起して十分にガス抜きをする。
- 温度の低い時、薬量を多くした時は注入から作付までの期間を少なくとも1週間位長くする。
- 処理後、未消毒の土がなるべく混入しないよう注意する。
- 処理後の放置期間と効果、薬害との関係は土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって様でないので本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意する。
- ばれいしょのそうか病に対しては、地温が低いと効果が不十分な場合があるので注意する。
- 茶葉を収穫する茶樹成木には使用しない。また、茶樹幼木に使用する場合は、翌年に茶葉を収穫しない。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 処理後、大雨があったり、土壌が重粘土質で通気の悪い所ではガス抜きを特に念入りに行う。
- 適用作物の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 毒性が強いため取扱いは十分注意する。誤って飲み込んだ場合は吐かせないで直ちに医師の手当を受けさせる。
- 作業に際してはガスに暴露しないように風向きなどを十分に考慮する。特に住宅付近での使用に当っては十分注意する。
- 衣服などに付着した場合は直ちに着替え、他のものとは分けて洗濯し、臭気が抜けるまで身に付けない。
- 作業中及びくん蒸中の圃場へ、小児など作業に関係のない者や家畜、家禽が立ち入らないよう十分注意する。
- 投薬作業の際は、吸収缶（活性炭入り）付防護マスク、不浸透性手袋、保護眼鏡及び長ズボン・長袖の作業衣を着用し、薬液が皮膚に付着したり、揮散したガスを吸い込んだり、また、薬液やガスが眼に入ったりしないよう注意する。また、ガス抜き作業の際にも吸収缶（活性炭入り）付防護マスク、保護眼鏡を着用する。
- 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。
- ミツバチの巣箱周辺での使用はさける。



【適用と使用方法】

作物名	適用病害虫名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤及び D-D を含 む農薬の総使用回数	使用方法
ブロッコリー カリフラワー	テンサイシストセンチュウ	20 ℓ (1 穴当り) 2 ml	作付の 10～15 日 前まで	1 回	全面処理 耕起整地後、縦横 30 cm 間 隔の基盤の目に切り千鳥状 に深さ 15～20 cm に所定量 の薬液を注入し直ちに覆土 鎮圧する。
はくさい ほうれんそう きゃべつ					
レタス 非結球レタス 非結球あぶらな科葉菜類 せり科葉菜類 きゅうり すいか いちご トマト ミニトマト メロン かぼちゃ なす ピーマン とうがらし類 まくわうり だいこん はつかだいこん にんじん ぶう ごぼう てんさい こんにゃく さといも かつおい しょうが やまのいも みょうが(花穂) みょうが(茎葉) しそ しそ(花穂) バジル うど 薬用 にんじん 食用 きく オクラ にがり もろあざみ らっきょう みしまさい さやいんげん ら さき	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	15～20 ℓ (1 穴当り) 1.5～2 ml			1) 全面処理 耕起整地後、縦横 30 cm 間 隔の基盤の目に切り千鳥状 に深さ 15～20 cm に所定量 の薬液を注入し直ちに覆土 鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらか じめ予定された溝に 30 cm 間隔に所定量の薬液を注 入し直ちに覆土鎮圧する。

作物名	適用病害虫名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤及び D-D を含 む農薬の総使用回数	使用方法
ね ぎ	ネダニ類	20 ℓ （1 穴当り） 2 ml	作付の 10～15 日 前まで	1 回	全面処理 耕起整地後、縦横 30 cm 間 隔の基盤の目に切り千鳥状 に深さ 15～20 cm に所定量 の薬液を注入し直ちに覆土 鎮圧する。
	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	15～20 ℓ （1 穴当り） 1.5～2 ml			1) 全面処理 耕起整地後、縦横 30 cm 間 隔の基盤の目に切り千鳥状 に深さ 15～20 cm に所定量 の薬液を注入し直ちに覆土 鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらか じめ予定された溝に 30 cm 間隔に所定量の薬液を注 入し直ちに覆土鎮圧する。
う り 類 （ 漬 物 用 ）	センチュウ類 コガネムシ類幼虫				
だ い ず え だ ま め	ダイズシストセンチュウ	20 ℓ （1 穴当り） 2 ml			
豆 類 （未成熟、但し えだまめ、 さやいんげんを 除く）	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	15～20 ℓ （1 穴当り） 1.5～2 ml			
ば れ い し ょ	ジャガイモシストセンチュウ				全面処理 耕起整地後、縦横 30 cm 間隔の基盤の目に切り千 鳥状に深さ 15～20 cm に 所定量の薬液を注入し直 ちに覆土し、ポリエチレン、 ビニール等で被覆する。
	青枯病 そうか病	30～40 ℓ （1 穴当り） 3～4 ml			
	ジャガイモシロシストセンチュウ	40 ℓ （1 穴当り） 4 ml			全面処理 耕起整地後、縦横 30 cm 間隔の基盤の目に切り千 鳥状に深さ 15～20 cm に 所定量の薬液を注入し直 ちに覆土鎮圧する。
か ん し ょ	ネコブセンチュウ	15～30 ℓ （1 穴当り） 1.5～3 ml			1) 全面処理 耕起整地後、縦横 30 cm 間 隔の基盤の目に切り千鳥状 に深さ 15～20 cm に所定量 の薬液を注入し直ちに覆土 鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらか じめ予定された溝に 30 cm 間隔に所定量の薬液を注 入し直ちに覆土鎮圧する。
	ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	15～20 ℓ （1 穴当り） 1.5～2 ml			
茶	ネコブセンチュウ	20 ℓ （1 穴当り） 2 ml			全面処理 耕起整地後、縦横 30 cm 間 隔の基盤の目に切り千鳥状 に深さ 15～20 cm に所定量 の薬液を注入し、直ちに覆 土鎮圧する。

作物名	適用病害虫名	10 a 当り 使用量	使用時期	本剤及び D-D を含 む農薬の総使用回数	使用方法
花き類・観葉植物 (きくを除く)	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	15～20 ℓ (1 穴当り) 1.5～2 ml	作付の 10～15 日 前まで	1 回	1) 全面処理 耕起整地後、縦横 30 cm 間 隔の基盤の目に切り千鳥状 に深さ 15～20 cm に所定量 の薬液を注入し直ちに覆土 鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらか じめ予定された溝に 30 cm 間隔に所定量の薬液を注 入し直ちに覆土鎮圧する。
きく	ネグサレセンチュウ	15～40 ℓ (1 穴当り) 1.5～4 ml			
	ネコブセンチュウ コガネムシ類幼虫	15～20 ℓ (1 穴当り) 1.5～2 ml	植付の 10～15 日 前まで		
樹木類	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫		作付の 10～15 日 前まで		
すぎ・ひのき (は種床) すぎ・ひのき (床替床)	イシクセンチュウ ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫				
たばこ	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	20 ℓ (1 穴当り) 2 ml	作付の 30 日前 まで		1) 全面処理 耕起整地後、30 cm × 30 cm 間隔で地表面から深さ 15 cm に所定量の薬液を注入 し、直ちに注入口をふさぎ、 鎮圧する。
		4～6 ℓ (1 穴当り) 1.3～2 ml	作付の 30～45 日 前まで		2) 畦内処理 植付前、畦立・畦面被覆後 に、植付予定位置の深さ 15～ 20 cm に所定量の薬液を注入 し、直ちに覆土鎮圧する。但し、 ガス抜きは行わないこと。